

編集後記

第3号の特集のテーマは「障害者の職業評価」である。この特集を編集するにあたっては、座談会の司会をして下さった小川孟氏にゲストエディターを御願いした。この特集が興味あるものとなったのは小川氏の御努力によるものである事を明記しておく。

手に入りやすい検査の1つに労働省編の“一般職業適性検査”があり、よく利用する。結果はほとんどが「該当なし」となってしまう事は経験された方も少なくないと思う。つまり身障者むきに作られていないのであろう。

職業リハについてはさらに種々な問題がある。本人も希望し、我々も就職しても問題ないと思う患者を就職させてくれる窓口はどこかと言えば、これが大変わかりにくい。かつて「心身障害者職業センター」という名の建物を見たので早速そこへ大きな期待を持って電話を掛けたところ、要するに評価を行う所で、実はまだあまりうまく機能していない、という返事をもらった事があった。数年前の事なので現在はどうなっているのかと思っていたが、西村氏の報告にその大要が示されている。評価を行って、その結果は職業安定所

へ参考資料として出し、就職の問題は主に職業安定所が行うらしいという事もその時わかった。その時の実感では単に評価を行うだけにしては名称が立派すぎるといった事を憶えている。

しかし「単に評価を行う事」が、いかに大変かが最近次第に理解できるようになり、この特集でも学ぶ事が多かった。特に私個人的には座談会が興味深かった。

さて「研究と報告」には岡部氏の“健康人の joint laxity について”がある。344名もの多数に調査したもので貴重である。今後多いに参考にされるものと思う。

「紹介」の欄では北村氏が新潟大学病院の5年間のリハサービスの統計を報告された。国立大学医学部付属病院には理学療法を持つところが多いが、それぞれに悩みを抱えているようである。その中で新潟大は目標を掲げ対処されている点に敬意を表したい。

春陽の候が近づき、同時に季節の変わり目も到来し、病人が増加する。読者の皆様方には御健康に留意されるよう御願する次第である。(明石 謙)

次号予告(第10巻 第4号)

特集 頭部外傷

- 頭部外傷の疫学と分類……………筑波大・脳外 牧 豊
- 頭部外傷の診断……………東京女子医大・脳外 喜多村孝一・他
- 重症頭部外傷の治療……………日大・脳外 坪 川 孝 志
- 頭部外傷のリハビリテーション……………横浜市大・リハ 安 藤 徳 彦
- 重症頭部外傷後遺症のリハビリテーションの経験……………国立宮城病院 笹 生 俊 一

研究と報告 進行性筋ジストロフィー症の

- 下肢筋群のCTパターンについて……………金大・医・短大 立野勝彦・他
- 慢性関節リウマチのリハビリテーションにおける関節管理：Triamcinolone Acetonide 関節注入の長期観察結果について……………七沢病院 岡 崎 健

展 望

- 米国における障害者差別撤廃の試み：リハビリテーション法第504条関連判例の試み……………筑波大 山 田 欣 徳

講 座

- リハビリテーション医学の評価法(3) Impairmentの評価：成人片麻痺の評価……………代々木病院 二 木 立
- リハビリテーション医のための代謝疾患入門(3) 糖尿病：検査と薬物療法……………東大・内科 小 坂 樹 徳

一頁講座

- 社会リハビリテーション(3) リハビリテーションの法制構造……………弁護士 村 田 稔

対 談

- 英国における地域リハビリテーションの実態を語る……………C. Aitken/上田 敏

ひ と

- 第1回飯田賞を受賞された別当有光氏……………兵庫リハセンター 澤 村 誠 志

編集顧問

天 児 民 和
大 島 良 雄
小 池 文 英
杉 山 尚
砂 原 茂 一
津 山 直 一
水野 祥太郎
土 屋 弘 吉

編集委員

明 石 謙
上 田 敏
大 井 淑 雄
大 川 嗣 雄
千 野 直 一
横 山 巖

編集同人

赤 津 隆
今 田 拓
今 村 哲 夫
江口 壽榮夫
小 川 孟
緒 方 甫
荻 島 秀 男
加倉井 周一
賀 集 竹 子
河 邨 文 一郎
小 島 蓉 子
五 味 重 春
斉 藤 正 也
笹 沼 澄 子
沢 村 誠 志
高 田 玲 子
高 橋 勇
武 智 秀 夫
土 屋 和 夫
永 井 昌 夫
中 村 隆 一
野 島 元 雄
野 村 欽
橋 倉 一 裕
長谷川 恒雄
林 玉 子
福 井 園 彦
松 村 秩
三 島 博 信
矢 谷 令 子
渡 辺 英 夫
(五十音順)

(細田, 山田)